

昭和四十九年九月招集

第三回館山市議定会定例会會議錄第三号

館山市議 会

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	一
議事日程	一
開議	二
報告第二号	二
議案第六十三号、議案第六十四号	六
議案第六十五号	六
議案第六十六号	七
議案第六十七号	九
議案第六十八号	九
議案第六十九号	二一
議案第七十号	二一
感謝状贈呈について	三〇
市長のあいさつ	三〇
休会	三一
散会	三一
本日の会議に付した事件	三一

一、昭和四十九年九月二十日（金曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

一番	吉田 勇治郎	二番	林 豊
三番	流山 源次郎	四番	鈴木 木
五番	近藤 好雄	六番	栗原 一雄
七番	渡辺 昭夫	八番	石井 武敏
九番	辻田 実	〇番	渡辺 寛治郎
一番	山本 昇	二番	藤田 益治
三番	五十嵐 昇	四番	伊賀 多朗
五番	和田 一郎	六番	辻井 謹爾
八番	安西 益男	九番	島野 茂樹郎
二〇番	君塚 喜三	二一番	鈴木 市蔵
二二番	田村 源治郎	二三番	菊井 敏博
二四番	西村 真次	二五番	安沢 徳順
二六番	飯田 義男	二七番	望月 照正
二八番	田中 禄郎	二九番	秋山 六三郎
三〇番	遠山 ヨネ子		

一、欠席議員 なし

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和四十九年九月二十日午前十時開議

日程第一 報告第二 二号

安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

日程第二 議案第六十三号
議案第六十四号

あらたに生じた土地の確認について
あらたに生じた土地を市の区域内に編入することについて

日程第三 議案第六十五号

字の区域及び名称の変更について

日程第四 議案第六十六号

財産の取得について

日程第五 議案第六十七号

千葉県競輪組合規約の変更について

日程第六 議案第六十八号

館山市基本構想を定めることについて

日程第七 議案第六十九号

昭和四十九年度館山市一般会計補正予算(第一号)

日程第八 議案第七十号

昭和四十九年度館山市水道事業特別会計補正予算(第一号)

開

議 午前十時三十五分開議

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

この際、議事について申し上げます。本日の議事案件の内容説明は先日の会議のうちに終っておりまますので、直ちに質疑より行ないます。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、報告第二号安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出についてを議題といたします。

報告第二号 安房中央土地改良区の経営状況説明書の提出について

質疑応答

○議長(吉田勇治郎君) 御質疑を願います。

○一〇番(渡辺軍治郎君) 二、三質問したいと思うんですが、二ページ、私勉強不足かも知れませんが、組合費の経常賦課金と特別賦課金というのがありますが、この区別がちょっとわからないので、この特別賦課金が千四百七十一万五千元、これは減額になっておりますが、この減額補正になった理由ですね。

もう一つ、同じく特別賦課金のほ場整備事業のほうですが、ここにも特別賦課金の五百八十七万三千元が減額補正になっていますが、この内容についての説明をお願いしたいと思っています。

もう一つは、だいぶ中央土地改良区はかなり長い期間かかってやられたようですが、経営の状況を見ますと、あまりよいような状況は聞いてないんですが、借入金残額がどのくらいあるのか。

もう一つは、今言った組合費といいますか、賦課金の未収金、そういうようなものが総額でどのくらいあるのか。そのへんをひとつお聞きしたいと思います。

もう一つは、最近、高井に館高の敷地の購入がやられました、あの周辺が農振からはずされて基盤整備から除外されておるよう聞いておりますが、これは今言った賦課金が土地改良区、ほ場整備合わせてずっとそういうものをつくるということで賦課金が取られてきたのかどうか。もし、賦課金がそういうふうに取られてきたとすれば、ほ場整備がやらなくなったということで、そ

の賦課金は戻さなければならぬのかどうか。中央土地改良区は水利権の問題ですけれども、ほ場整備が一応進められてこれからやられていくということになりますと、それらの賦課金が今後どうなるのか。そういう点について御説明願いたいと思います。

○農産課長(石井 謀君) まず第一点の経常賦課金と特別賦課金の件でございますが、これは経常賦課金というのは事務的な経費でございます。それから、特別賦課金というのが工事に直接要する賦課金でございます。

その次に、二ページの特別賦課金の減額千四百七十一万五千元並びに東部地区関係の減額でございますが、これは関連しておりますので、一括でお答えしたいと思いますが、四十七年度までは総事業費の二五%、要するに四分の一を各受益者が負担をする。

その中の八〇%までが融資を受けておったわけでございます。農林漁業金融公庫から。四十八年度からその貸し付けの規則が改正になりました、これは全額融資というようになつたために、この減額補正をした。こういうようなことでございます。

それから、未収金の関係でございますが、三十三年度から四十八年度までの総合計が六千四百九十二万九千八百八十二円でございます。

次に、高井周辺の関係の耕地の賦課金の関係でございますが、当初はダム計画においては千百余町歩で賦課しておったわけです。そういうことで途中でもってそういうような転用とか、あるいは館高用地の関係とか、そういうふうに関係なくなるといふような場合については、これは賦課金を返すのでなくて、逆にそういうふうに移転する方は今までの分は返さないで除籍金としま

して逆に支払うということでございます。というのは、そういうふうにだんだんと途中でやめた場合になってくると、残った人の負担要するに今まで借り入れしておった金額の負担を残った人が全部負担しなくちゃいけないというふうな関係で、除籍金制度によってそういうふうに関係から除外されたものは返還しないというふうなことでございます。

借入金の残額でございますが、四十八年度末におきまして四億四千二百九十一万五千元でございます。

○一〇番(渡辺軍治郎君) ただいまの説明では、たとえば館高の敷地の問題、それからあの周辺をほ場整備からはずされるというようなことが新しく条件として出たと思うんですよ。そういう人たちが今まで賦課金をずっとかけてきて、こういう人たちは当然もうほ場整備をやらないと、水利権の問題についてもかんがい排水の問題が解決されるか、されないかわからない。こういうようなところでもかなり払わない人もいると思うんです。こういう人たちは、当然自分たちは基盤整備、そういうものからはずされたんだから今までかけた賦課金は返すのが当然ではないか。そういう考えをもって滞納しておつて払わないという問題があります。

もう一つは、今賦課金の未徴収分を見ますと、六千万円も未徴収がある。しかも、借金の残高は四億四千万もあるということとこの土地改良区は不健全な経営状態になっていると思うんですよ。果してこの借金をこういう状態で返していけるかどうか。そういう問題でも危惧があるんですが、最初のとにかく返さないといふことはちょっと不合理じゃないかという気がいたします。

それから、ほ場整備をこれからやっていく西部のほ場整備です

ね。そういうところにも減額の賦課金が出ていますが、これは今までにはほ場整備やるようになっていた。高井周辺のものはずされたから、さっきの話では返さないということがありました、これはこれから変更になったので、そういう人たちの分を減額する。そういうことではないわけですね。

○農産課長（石井 謀君） 館高の周辺の耕地として残るようなところでございますが、これは今後もしっかり農地として利用するために、当然区画整理、基盤整備しなくても水利権があるわけでございます。また、中央土地改良区においてもそういうような基盤整備をやらなくても賦課金を払っている以上は、水をそこに供給するということに相なるわけでございますので、これは賦課金を返還しないということが原則でございます。

それから、借入金の残が四億ということでございますが、これは毎年毎年計画的に今申し上げましたように借り入れしておるわけで、その積み重ねがそういうことで、これは十年間据え置きで十五年間償還ということでございますので、十年間経過すれば次々と返還していくということでございますので、累積数字は大きいんですが、これは年次計画に基づいてこれを償還していくというふうなことでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そうしますと、未収金の六千万というような金額は回収の見込みがあるのかどうか。そのへんが非常に問題になると思うんですよ。これは借入金を返済するにしても、事業を進めるにしても、六千万も未収金があるということとはかなり問題だと思うんですが、その点はどうですか。

○農産課長（石井 謀君） この問題も、私も理事者に対しまし

てよく話し合うわけでございますが、とにかくダムも完了したあとは、幹線が残りが半分程度であるということと何とか未収金の回収方について話し合っておるわけでございますが、ただ、この中で二、三の館山市以外の地区でございますが、二、三の部落が集团的に水は必要ないというふうなことで賦課金についての支払いをしておらないわけでございますが、このへんはどういうようなことになるのか、現在土地改良区の理事者側も検討中でございますが、最終的には、私の聞いている範囲では区域をそういうような場合には変更する以外にはないんじゃないかということをお願いしておりますが、まだ結論的にはその未収金の解決方法について出ておらないようでございますので、一応私もその点について心配しておるわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） もう一つ、先ほど回答がないんですが、これからほ場整備をやる場所、西部そういうふうなところで、今言った高井周辺はほ場整備から除外されているわけですよ。そういう人たちの事業のための賦課金、そういうものは免除されるのかどうか。そのへんはどうなんですか。

○農産課長（石井 謀君） これは先ほどお答えしましたとおり、当然水利権はあるわけでございます。ですから、土地改良区はそこに水を供給する義務があるわけでございます。ただ、基盤整備をやるからそこに水がいけないということではなくて、あくまでも水は賦課金を納めておれば、当然その水を供給してやるということ、その賦課金の返還とか、免除とかいうことはないわけですよ。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 水利権の問題では、そうしますと、基

盤整備をやらないところでもかんがい排水の整備はきちんとやるわけですね。もし、それがやられないと、水利権があっても水がこない。あるいは、要するにかんがい排水がうまくいかないという問題があって、金は納めたけれども何の役にもなってないということになりかねないわけです。そこらがどうなのか。

それからもう一つ、今言ったこれからほ場整備をやるところは、その賦課金を取ってるわけです。水利権の中央ダムの問題と、これからやるほ場整備の問題違うわけです。今言う高井の周辺はほ場整備やらないとすれば金は出さなくても済むわけです。それを取るといふようなことは、ちょっと今、課長の説明ではほ場整備のあれは取るというように言っていますが、水利権の問題では、かんがい排水をやったその水利権を利用できればやむを得ないとしても、返さないとしても、これからほ場整備をやらぬのに金を取るということは問題があるんじゃないですか。そこらはどういうふうに。

○農産課長（石井 謀君） 水利のかんがい排水関係につきましては、これは当然水はそこに入れるように中央土地改良区と地域の住民とよく話し合っていたら当然やるような方法をとるべきであらうかと思えます。

それから、ほ場整備の関係地区についての賦課金でございますが、これは一定の地区を定めてそこを区域にするわけでございますが、国、県の指示によりますと、区画整理の関係については、法律的には三分の二以上の同意があればできるわけでございますが、方針としては、全員がやっぱり同意をするということをする前提においてやっておるわけでございますが、中にはその地域を

定めて、私は区画整理をやってもらわなくてもいいんだという方が賦課金を納めてないわけでございますが、そういうような方々については今後よく話し合ってもらって仲間になっていただくというふうに指導していきたいと思っております。

○一番（渡辺軍治郎君） くだいようですけれども、これは非常に農家にとってみれば問題が多いと思うんです。

今、農家の経営が非常に苦しい困難の状態の中で、なんか出さなくてもいいような内容の賦課金を取られるということではかなり抵抗があるわけです。ですから、ほ場整備をやるために自分の出した金がかんがいと使われればみんな喜んでやると思うんですが、そうでないわけですから、よくそういう人たちと話し合って納得のいく上でやってもらいたいと思うんです。

それからもう一つは、たとえば、市が館高の敷地を買収した場合には、その農家の方たちは埋め立てられちゃって農業経営はできないわけですから、そういうような人と、まだ田が残っているかんがい排水で水利権を利用するというような人とは条件が違うわけです。ですから、土地を売ってそこは埋め立てられて農業できないんだ。しかし今までは中央土地改良区に入って賦課金を納めていたというそういう人たちは農業を続けられないから賦課金を返せということも出てくる。農業を続けていけば水利権として水利を利用するということは当然ですから、納得いくと思うんですが、そうでない場合には問題が非常に多い。そういう点は、そういう人たちとよく話し合って、総代会に出た役員がみんなに納得のいくような説明をしていないんですよ。ですから、下のほうでいろいろのそういう問題があって納めないというふうになっ

てくる。賦課金が納まらないというのは納得づくでものごとをやる
らないから、出すやつを出さないで、何を言ってるんだというよ
うなことになるんです。そこらは納得づくで、困難な仕事ですか
ら成功させるためにはやっぱり民主的に納得づくでやるというよ
うなことがないと、私はスムーズには進まないと思いますので、
そういう点は十分ひとつ気をつけてやってもらいたいと思います。

それから今、市民センターの周辺の田んぼですよ。ここは水が
はけないんですよ。水が必要とするよりはけけないということで、
このかんがい排水がうまくいかなければ金を出さないと言ってる
わけです。ですから、その点も水利権があって、そのために賦課
金を取っているとすれば、そういうかんがい排水もちゃんとやっ
てやるということでなければ金は納まらないというふうに考えま
すので、そういう点はよく地元の人と相談づくでやってもらいた
いということをお願いして質問を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。―御質疑
なしと認めます。
次に進みます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十三号あらたに生じ
た土地の確認について、及び議案第六十四号あらたに生じた土地
を市の区域内に編入することについてを一括して議題といたします。
す。

議案第六十三号 あらたに生じた土地の確認について
議案第六十四号 あらたに生じた土地を市の区域内に編入する

ことについて
○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。御質疑ございませ
んか。―御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。
本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに
御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。
本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は
原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十五号字の区域及び
名称の変更についてを議題といたします。

議案第六十五号 字の区域及び名称の変更について
○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませ
んか。
―御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第六十六号財産の取得についてを議題といたします。

議案第六十六号 財産の取得について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この問題は、文教民生委員会でも、全員協議会でも論議された問題ですが、これが議案として出てきまして、ここではっきり学校施設用土地、建物として、学校の施設用地としてはっきり明文化されていますが、これは文教民生委員会でも、それから全員協議会でも学校の建築と用地の要するに取

得ですよ。そういう問題とは切り離して考えると、用地の利用については、館高の用地の利用についてはまだいろいろと利用の問題がありますので、大体の了解事項としては、こういう学校の敷地というところで買収しないと具体性がないということで一応こうなっておりますが、固定したものではないということの確認が得られるかどうか。そのへんの説明をお願いしたいと思います。

○教育長（安田豊作君） 御意見ございましたが、学校施設用の用ということは、学校の施設などの土地の用に供する。こういう解釈でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 非常に微妙なあれですが、（笑声）これは確認事項として一応全員協議会では三中というようにことで固定化さないとということが大体の条件になっていますが、はっきりあまり書かれちゃうと、議会ですから、議事録に残って後で問題になる可能性もあるわけです。そこら心配するわけなんです。学校施設用というのが学校の施設のために用いるということですよ。この間に、等とか、なんかそういうような一字ぐらいははさめませんか。（笑声）

先にいって、学校をあそこにつくられちゃうと非常に固定化して、あとの利用価値が全然なくなっちゃうと思うんですよ。あそこは社会体育の場としてというような意見もかなり強いし、将来館山市は、これから議題に出ると思いますが、十年先の館山を展望するといふようなところから見ると、あそこの土地をどうこれからのために利用したらいいかということでは問題がたくさんあると思うので、ここからはっきりと学校の用地として決定づけちゃいますと、動かすことができないんじゃないかという印象をか

なり受けるわけですよ。ですから、そこらのところは非常にあいまいでちょっと困ると思うんですが、なんか学校施設用等という字を入れたらある程度あれじゃないんですか、そのへんの修正はできませんか。

○教育長（安田豊作君）

あのこの間の全員協議会の皆さんの意思を体しまして、いろいろ各担当課と話し合った結果ですね。用というの、等という意味を含むんだという（笑声）、ただ、用をつけないで、学校施設土地、建物としてということとは意味が違うという解釈を私どもとおるわけです。それを、等とつけますと、県のほうでの感じと違いますか、そういう面がむずかしくなるんじゃないかという両方についてはあれですが、考えた結果こういうふうなことでお願いしたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君）

だいぶ苦勞したあれですが、（笑声）

そういう点は、用語の問題はいいとしても、これは議会ですから一応利用方法についてかなり問題もありますから、そういう点では今後のために、学校の施設用地としていうことを固定化さないうちに、ひとつそういう点では議事録のほうでは、はっきりしておいてもらいたいと思うんですよ。そのことをお願いして私の質問は終わります。

○九番（辻田 実君）

関連して、同じことなんですけれども、この点については全員協議会で討論された内容について集約されておらないと思いますので、その点についての確認事項だけをひとついたしたいと思います。

結論的には同じことなんですけれども、要するに今回、この館山高校跡地の取得に際しまして、学校施設用地、建物として申

請をするわけでございますけれども、この件についてはまだ三中等の学校ができておらない現況の中で、さらには、館山市の都市の再開発の中において、館山高校跡地についてはその利用の意見も市民の中に相当あるわけでございますけれども、そうしたものを考慮しながらも、現段階においてはいずれも確定的なきめ手になっておらないので、とりあえず学校用施設、建物として申請するのであって、将来これらの問題についてはそうしたところの都市計画が決定していく中において、ある程度そうした市民の意向というものによってこれがかわることもあり得るというふうに解釈してよろしいのでございますでしょうか。それについてお答えをいただきたいと思えます。

○教育長（安田豊作君）

御質問のように私どもは解釈して、こういう申請になっております。

○九番（辻田 実君）

了承いたしました。

したがって、これは現段階におけるところの方法として、一応現段階はこれが最適であるというところで、これが絶対的ということにはならないというふうに解釈してもいいわけですか。

○教育長（安田豊作君）

そうです。

○九番（辻田 実君）

了承しました。

○議長（吉田勇治郎君）

他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君）

本案を委員会付託を省略いたしたいと思えますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

おはかりいたします。討論を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は

原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第六十七号千葉県競輪組合規約の変更についてを議題といたします。

合規約の変更についてを議題といたします。

議案第六十七号 千葉県競輪組合規約の変更について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。

— 御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに

御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は

原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第六十八号館山市基本構

想を定めることについてを議題といたします。

議案第六十八号 館山市基本構想を定めることについて

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この基本構想について、これは大体五

十年から六十年までの構想を明らかにするということだと思ひますが、この総合計画案の基本構想、基本計画ということで出されておりますが、総論と各論に分れているんですが、一番大事なのは総論だと思ひます。各論は総論の方向をある程度具体化する

ために各論がそれぞれの分野にわたって出されていると思ひますが、これを見ますと、館山市の現況ということで総論の中の第一節ですが、歴史と現況というのがあります。十年後の館山市を

どういふふうに建設するかということで、一番大事なのは現在の館山市が歴史的に見て、また現実にとどういふ状態になっているかということを事実に基づいて科学的に分析することが一番重要だと思ふんですが、そこから出発して、どこをどうかえなければならぬかという問題が出てくるわけで、そういう点でこの総論を非常に重視するわけですが、その中に確かに「館山市は南房総の政治、経済、文化の中心として発展してきた」ということは、これは事実だと思ふんです。ただ、今の時点で「軍都館山として活況を呈した」というようなことが言い得るかどうかということとは、ちょっと問題がここにあるかと思ふんです。

それから、その後の「自然条件を生かして産業、御光都市として進展しつつある」ということは、これは事実だと思ふんです。しかしそのあとに「産業、経済等の面で後進性を余儀なくされている」と言われております。「高度経済成長を続けている中に」とありますが、今、第一次産業といいますが、農業、林業、漁業というふうなこういう企業が全体として非常に経営が困難になっているかと思ふんです。これは事実だと思ふんです。

しかし、その原因がはっきりと政策的な、自民党政府の高度経済成長、大資本の利益を中心にしたそういう政策が、これは館山だけに限られた問題ではないし、日本全国どこでも農業や漁業が衰退した後継者もないというふうな困難な現実なんです。その点はやっぱり政策がかわらないと、これを私たちの力でどうかえていくかということ、当然やらなければならないけれども、国のそういう政策とかなり関係しているわけですよ。そのへんのところは分析する必要があるかと思ふんです。

それから、地理的に見て格差の問題で、館山市が袋小路に置かれているから格差が出たんだ。こういうような表現ですが、これは袋小路のような地理的な条件だから格差が出たというようなことじゃないかと思ふんです。

一方では、工業が高度経済成長によってどんどん発展し、農業とか、漁業とかそういう第一次産業が犠牲にされてきたわけですよ。袋小路の問題じゃないかと思ふんです。館山は海に囲まれ水産資源あるいは後方の農村地域、これらの産業が発展すれば館山の経済はもっともって発展したわけです。こういう分析についてかなり違った分析のしかたじゃないかというふうに見るんですが、このへんをどういふふうにお考えになられているのか。まずお聞きしたいと思ふんです。

0 企画課長（伊藤幸太郎君） お答え申し上げます。

ここにも書いてございますが、地理的に見まして、本市は御承知のとおり袋小路的な地理的条件の中に置かれているわけでございます。で、合わせまして、戦後いろいろの面で、かつての農業県でありました千葉県そのものが工業県へと転換がはかられまして、工業的な面での伸展が非常に発展してまいっている事実がございます。

そういう中にありまして、農業あるいは水産業等の第一次産業が非常に困難な状態に置かれてきておる。この推移があるわけでございますが、やはり工業県のそのものについて人口の移動あるいは就職の推移といういたものからいまして、館山市の第一次産業である農業、水産業の非常に何といひましょうか、盛んになつておらない推移がここに書いてあるわけでございますが、そう

三内 加
いった問題と合わせましてこの地理的条件というものがござい
すので、そういう意味で今お話しにもございましたような現況に
館山市が置かれてきておるといふ考え方でございます。

でありますので、ここにもありますように、このような条件を
一面悪条件とでも申しましょうか、そういうったものをむしろ今後
は生かしまして、今後の館山市を考えてまいる必要があるんじや
ないかというような考え方に立っておるわけでございます。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君） 今の館山市をどう見るかということ
すがね。ここに書いてあるように将来の問題として、恵まれた自
然的条件の特性を生かして市将来の発展をはからなければならな
い。要するに十年後の館山市を展望するときに、どういう館山市
に、要するに十年後はどういうところに到達するのかというそう
いう展望を持ったものだと思うんですよ。

したがって、これは今出ていますように、千葉県は工業化がず
っと進んで富津以北は大体工業地帯、房総南部は観光レクリエー
ション地帯として、要するに天然資源に恵まれたこの館山は、発
展の方向とすれば観光レクリエーション地域として住みよい豊か
な館山市をつくっていくことということが目標になると思うんです。
それはどういふふうにお考えになっているのか、聞きたいと思ひ
ます。中心ですよ。館山の発展方向の中心をどこに置くのか。そ
の中で、当然農業、漁業、商業いろいろの問題が付随して出てき
ますよ。それから文教あるいは福祉そういった問題も個々には出
てきますけれども、一応どういふ方向のめどをつけるのか。そこ
らをはっきりしないとぼやけると思うので、その点を確認したい
と思います。

〇 企画課長（伊藤幸太郎君） 最終的な館山市の将来、これはつま
りこの構想に盛られております明るく豊かで、そして文化的で福
祉政策が充実した館山市でありたいということでございます。

具体的には、ここにいろいろ書いてございますけれども、その
うちで特にここにも書いてございますように、やはり都市の発展
というものは産業の振興にあるんだということが大きなポイント
として考えられると思います。そういうことで、この館山市の将
来像である基本構想を考えたいわけでございます。

〇 一〇番（渡辺軍治郎君） 見解の相違といえばそれまでかもしれ
ませんけれども、そういう点ではなんか総論の中で目標を、そう
いうようなものが館山の歴史的な条件の中でまだ非常にあいまい
ではないか。はっきりとしたビジョン、はっきりとした展望は明
らかにすべきだと思うんですよ。

そういうことから、果して館山は観光レクリエーション地域と
して将来発展するということとは、今の千葉県の置かれている状況
から見れば、これははっきりしていると思うんですよ。そういう
方向で、それに付随して館山市の水産業、農業を発展させなけれ
ばならないという問題が出てくると思うんですが、まず基本方向
としてはそういう方向が一番大事ではないか。しかし、その大事
な目標にいきつくために、館山市の現状は具体的な現状は一体ど
うなっているのかという分析がないんですよ。

たとえば、航空自衛隊は、あそこ六十五万坪と書かれておりま
すが、あの土地が独占されて館山市の発展にとって妨げになって
いるのか、あるいは利益になっているのか。今後十年後もそうい
う状態でいいのかどうか。現在のような状態でいい

のかどうなのか。

それから、館山市は観光都市として発展する上で、海水浴場というのは、館山市から海水浴場を取り除いたら館山の観光はなくなっちゃうと思うんですよ。その海水浴場の現状、どうなっているのか。そういう点がどういうふうに自然環境が破壊されて、歴史的に見れば、破壊されてきている事実があるわけですよね。そういう分析が一つもないわけですよ。

だから、そういう現実的な、いろいろ海水汚濁で大ぜいの海水浴客が入れば全く黄色ににごっちゃうわけでしよう。こういう現実を正しく見るならば、ヘドロの除去だとか、清掃するため、このあたりのほうで公共下水道とか、河川の問題とか部分的に出てきますが、現状を正しく把握すれば、そういう施策というものは当然出てくるわけです。そこらの分析が非常に不十分だと思えますが、そういう現実認識が十分か、十分でないか。そういう点では非常に不十分だと思います。どう考えておるのか。そこらを現実的の問題としてお聞きしたいんです。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 現状の分析というお話しでございませうけれども、一応参考書類としてお手もとにお配りしてございませう基本計画の中で、私どもの考え方としましては各論別に現況を把握し、ある程度分析をして将来への考え方を打ち出してございませう。そういう意味で御理解を願いたいと思います。

それと、ただいま御説明のございました海水浴場の問題あるいはまた自衛隊等の問題につきましては、これはたとえば自衛隊の問題につきましては、これはいろいろ考え方が出てまいろうと思えますが、自衛隊そのものに対します是非論でも申しましょ

うか、そういった問題はなかなかむずかしい問題でございませうので、それに対しますこの場での回答はちょっと私どもとしてはできかねると思います。いろんな問題がございませうので、ただし、現実の問題としてすでにあそこへ置かれておるといふ現実、これは動かない現実だと思えますので、そういったものをふまえて今後の館山市の全体的な発展への施策をこの基本構想に基づいてさらにまた基本計画等に基づきましてやってまいりたいという考え方に立っているわけでございませう。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 自衛隊の問題については特別な関係があるというように、これをのせるようなことをなんかタブーみたいに考えていますが、実際には、自然環境が、自衛隊がそこに埋め立てをすることによって破壊されたのか、自然環境がよくなったのか。

館山は、自然環境を生かさなければ観光レクリエーション地域というようなことをいくら口で叫んでもそうはいかない。ですから、歴史的に見て、あそこを埋め立てたためにどういう被害がある。環境がどう破壊されたか。

それから、館山の海水浴場にしても、海岸道路はあの砂浜を破壊したわけです。これは、はっきりいって自然環境を破壊しているわけです。道路によって。上のほうに、富士見橋のところには道路を拡張してつくればいいのに、海岸をつぶしてやったわけですから、これらはやっぱり環境を破壊しているわけです。

しかし、現実にもう道路があそこにある以上、これをすぐかえるということとは困難ですから、実際にやし並木をつくったりなんかしていただけますけれども、実際には海水浴場として都人士から親し

まれ、喜ばれる。そういうところが破壊されてお客が入ってこない。海に行くにもあの道路を危険で入れない。子供づれがこないという現実、そういうふうになっておる。現実に破壊されたためにそういう事態が起きているわけです。

ですから、私が言いたいのは、そういうふうにいるあるわけです。しかし、そういうものをはっきりさせなければ、館山市が航空自衛隊が発展にとって妨げになっているということは公表しても一向さしつかえないと思うんです。

今、いろいろ自衛隊から環境整備でもって金をもらっていますけれども、それは当然なんです。騒音公害があれば要求して取るということはあたりまえなんです。それとは別に、自衛隊がそこに埋め立てして、これから長く十年もあそこにいるということは館山市の発展には役立たないということははっきりすべきだと思えます。これは政治的な面とは別に、われわれは自衛隊は憲法違反、長沼裁判でもそういうことは出ているし、将来これは廃止しなければならない政治的方針持っていますけれども、館山市の発展、そういうところから見ただけで、やっぱり観光やレクリエーションあるいは漁業、館山の産業、そういうようなものから見ても明らかにあの膨大な埋め立てをしたということは、こういう環境を破壊しています。だから、それは破壊したものをわれわれは取り除く努力をしていかなければ、十年後に本当に平和で住みよい館山市を建設することにはならないと思えます。そこを私たちは、はっきりとさせべきだ。

そうすれば、それなりの努力は、木更津でも保守党の方々も一緒になって、やっぱりあそこは木更津の発展にとって木更津基地

が大きな妨げになっている。これをどっか移転してもらいたいというのを議場で満場一致に可決して、防衛庁なんか陳情しているわけですか。

館山市の発展ということを考えれば、どうしてもこの問題に触れないわけにはいかないです。だから、そういうことで、なんか速断することはないと思うんです。金をもらうのは当然なんです。騒音公害でそれを防止するために金を出させるのはあたりまえの話で、どんなそういうことは要求して出させたいと思うんです。それとは別問題ですから、そういう点はけじめをつけてやるべきだと思います。

そういう点で、この総論というものは非常に不十分で、もっと検討する必要があると思うんです。そういう意見を述べて私の質問を終りたいと思います。

〇九番（辻田 実君） 三点について御質問申し上げたいと思います。

先般、総務委員会ではいろいろと他市の調査等も行なった中において、館山市の総合計画については議会として議決する事項としてはかなり適切というんです。かなりじょうずな形で編成が行なわれたというふうに考えております。したがって、全体的にはこの程度のこういう形の計画というもので現段階については満足するわけでございます。しかし、字句の問題等について、私もあまり頭がよくないものですから、解釈をひとつお願いしたいわけでございます。

一四ページの一番上の二行目で「市民生活の規範となるべき市民憲章の精神」ということでございますけれども、市民憲章を制

定の経緯等の論議の中から、規範ということばがここに登場してきたわけでございますけれども、これはどういう意味なんですか。この点について解釈をお願いしたいと思います。どうもそこらへん、ことば上の問題で申しわけないんですが、こういう論議は今まであまりなくて、ここにはじめて市民憲章が規範となるということが出ましたので、規範という意味をちょっと教えていただきたい。

それから二番目に、一五ページでございますけれども、ここに館山市の将来指標というものがあつてございます。この中で私は基本となるべき人口の把握の問題でございます。

この人口の把握の問題について、これは四十五年度で五万五千二百という数字が出ておるわけでございますけれども、この数字が、私は生活部門のし尿処理施設、それからごみ処理施設の問題と関連して質問するわけでございますけれども、四七ページ、ここにし尿処理施設の清掃区域人口六万三千二百五十六という数字が出ておるわけでございます。これは四十八年度の市の広報、その他を見ても館山市の人口は五万六千になつていくことが把握されておりまして、この数字でいきますと、約六、七千の数字が多いような感じがするわけでございますけれども、この区域人口というのはどういう意味をしておるのか。

それから、面積については、この数字で市のいろんな資料と現時点の数字は一致しているんですけども、住民の人口と六万三千二百五十六という端数の出た人口はどういう差のことなのか、この点をお伺いしたいわけです。

これが非常に重要に思われるのは、四十八年度末の一日当たり

の収集量が七〇・九キロリットルということになっておるわけでございますけれども、この七〇・九キロリットルというのは六万三千人の人口の中で出ておるということでございまして、これが指標でいきますと、六十年には一日の処理量が一〇〇キロリットルということになるわけでございます。六万三千の人口でもって七〇キロリットルでございまして、この年次が、人口年次が五万五千二百というのは、六十年には六万六千になるわけでございます。

算術計算でいきますと、どうしても六万三千に対して、これに対して約一万プラスしなければならぬ数字で把握しないと、この処理能力、し尿並びにごみの処理能力がこの時点で数字的に処理できないというものを提案したのかどうか。

私が聞きたいことは、十年間たつてもごみの問題は残るといふ前提のもとにこれは計画されたということになりはしないか。数字的にそろばんを入れていきますと、おわかりでしょうか。いいですか。この点を二点目としてお伺いしたいわけでございます。

それから第三点目は、五〇ページ公害の問題でございます。五〇ページの公害の中の冒頭に「水銀、PCB等直接人体に被害を与える公害の発生は見えていない」と、「しかしながら」ということで、「粉じん、騒音、悪臭等の発生がみられるので」というふうにつながつておるわけでございます。これはどういう意味というんですか。どういう意図をもって、こういう文章表現にされたのかということでございます。

一昨年の環境庁の調査によりますと、館山市沖のボラのPCBの問題、東京湾におきまふところの魚介類のPCBの問題は、か

なり人体に影響を及ぼす許容量をもってあります。そのことが政府の発表としてなされておるということが新聞報道なされて、千葉県といえども、東京湾の魚ということについて、POB問題は人体に影響を与えるおそれがあるという形の判断をしていると思います。

さらに一昨年、館山保健所において実施しましたところの農家の妊産婦の母乳のPOB検査を行なったところ、その七〇%に及ぶところの母乳の中にPOBが含まれておって、かなりの人数の者についてそのまま永続的に母乳を乳児に与えた場合に、その被害が出るおそれのある基準に達しておるということが報道されておりました。

そうして、この問題は、どこからどこまで、何PPM以上になると、たとえば人体に影響があるとか何とかということとは、子供と母体の関係等によってかなり違うので、基準は非常にむずかしいけれども、しかしながら、農家の農業にたずさわっておるところの主婦、母親の母乳は決してきれいなものではない。安全度についてはかなりクエスチョンマークがあるので、母乳より人工乳を与えたほうがという普及が生活指導員によって現に館山の農村地域に行なわれておると、農村の婦人は母乳をやるが進められておらない。むしろ母乳のほうがいいにきまっておるけれども、POBの問題が出ておるのもって、これについては人工乳のほうがいいんじゃないかという具体的な、農業生活指導員によってパンフレットが配られておるといふことについてどのように考えておるか。

こういうことを考えてみると、こういう文章表現の意図がどう

なのか。農家の母乳の問題については私は三、四回見ております。かなり大きい見出しの中で、これは地方紙だけではなくて、中央の三大紙の千葉版等にも出ておったことを記憶しておりますのでこうした面から見ていって、これはどういふことなのか。

むしろ、この点については、こういうような問題についてはなという形の、発生をみてないという表現の中において行なう意図がどうなのか。むしろ、こころへの表現については、そういう現状を認識しながら、もっとこの問題については注意をしなげられなければならないという形にいくのが、私は現館山市の段階ではないかというように思うんですが、ここは否定的な文章に出きておるところに、どういふ意図があったのか。今私が申し上げたような報道、調査結果との関連はどのようにここに結びつけられたのか。

以上、三点についてお伺いをしたいと思います。

企画課長(伊藤幸太郎君) 市民憲章の件でございますけれどもここに「市民生活の規範」ということで表現してございますが、これは御承知のとおり市民憲章の精神というものが、市民一人一人の心がまえとでも申しますか、そういったことがら憲章として表現されておりますので、その精神ののっとってというように意味合いで私ども考えたいわけでございます。

それから、二点目の人口の問題でございますけれども、これはいろいろ人口の把握につきましては将来の問題でございますので考え方が出てまいろうと思いますが、私どもの作業の過程におきましては、現時点を一応考えまして将来を推定し、いろいろ各種の資料あるいはそういったものを十分勘案しながら考えました場

合に、六万三千人から六万六千人というようないわゆる推定がなされたわけでございます。しかしながら、これはあくまでも国や県の推定人口調査等を勘案したものでございますので、この指標といたしましては、最高の六万六千人を目標に人口問題を考えてまいりたいという考え方でございます。

それから、し尿とごみの問題でございすけれども、ここにも書いてございますように一日の日量一〇〇キロリットル、それから、ごみの場合におきましても一日一〇〇トン、これは六万三千人から六万六千人の最高の間を考えまして、そうして一〇〇キロリットルあるいは一〇〇トンというような一つの目標を考えたいわけでございます。

それから、次の公害の問題でございすけれども、これはここに書いてございますが、いわゆる日本的に考えまして非常に大きな問題になっておりますような、他地区のようなああいう現象は館山には幸いにございせんという意味でございす。

部分的には、水銀の問題等論議されべき問題があるようでございすけれども、大きく考えました場合には、幸いにこういう問題はありません、しかしながら、この公害の問題は大事な問題でございすので、できるだけ指導行政等、施策の中で考えてまいりたいということの表現でございすので、御理解いただきたいと思ひます。

○衛生課長（館石勘治君） し尿人口と処理状況のことにつきましてお答え申し上げます。

し尿の収集人口は、ただいま企画課長の申し上げたとおり、こういう推定人口でここに計上したわけでございます。今後の問題

でございすけれども、このし尿の処理方法としまして、現在汲み取りと、それから浄化槽、将来は下水のような問題等も起こると、こう想定されるわけでございます。したがしまして、現在の浄化槽の状況等を勘案いたしまして、このような数字を考えたいわけでございます。

○九番（辻田 実君） 一点だけ、ちょっと質問の要旨がわからないようにございすので、再質問しますけれども、私はここで四八ページにいつて、清掃区域人口六万三千二百五十六という数字は何の人口かということなんです。こういう人口は私はじめて見るんです。これは下の面積の一〇九・七七平方キロメートルというのには館山の土地と一致しているんです。この数字は見たことがあるんです何度も。

だけれども、館山市の人口の中に六万三千二百五十六という端数の出てる数字が、はじめて見るんだけれども、どういうことなのか、前半の推計人口はわかるんですけど、となると、さっき申しましたところの推計人口を六万六千人にした場合に、この清掃区域人口六万三千というのは、五万五千の人口のときに六万三千二百五十六人いるわけですから、これが約一万人ふえるわけですから、そうすると、自然に収集人口というのは自動的に一万ぐらいふえやしないか。そうなってくると、この計算でいくと、一〇〇キロリットルというのは六万六千でおさえ人口ということになりますと、私は収集人口はどういうのかわかりませんけれども、七万六、七千ぐらいになるんじゃないかということになってくると、完全消化ができなくなるという算術計算が出てきちゃうということなんです。そろばん入れてやってみなければ

どうしても合わない。合わないようなことは、どういう形で合わなくなつたのか。計画ですから、私のように細かくやる人がいると思いますので、その点につきまして理解いただきたい。

それから、第一点の規範の問題についてはわかりました。そういう心がまえというような形でいうことでございますので、そういうことでやっていただければいいんですけれども、規範とかこういう問題は法律用語でございしますから、この中で使われているのはいいと思いますので、市民憲章の中で語られた問題を、こういう法律のもの、市民生活の規範ということになってくると、規範の段階はまだいいんですけれども、これが一つの条例に準ずるような、法律のものにエスカレートしてくると、市民生活の自由、規制、許容という問題も出てくるわけです。

ですから、この点については、憲章の扱い等については議会で中で論議されましたように、そういう心がまえでいくべきだという論議で集約されたわけでございますけれども、議会の意向がなくて、こういうところに規範だとか、法律的なかなり市民権、基本的人権を抑制するようなことばにエスカレートしないようにお願いしたい。これはこの場合はけっこうでございますから、この点私は注意をうながしておきたいと思ひます。

先ほど申した一点について。

○衛生課長（館石勘治君） 収集人口五万六百五人に対して、清掃区域人口という表現でございます。清掃区域人口は全市にまたがったわけでございますので、全市というふうにお考えいただきたいと思ひます。

六万三千二百五十六人に計上されているということで、こうい

うことで疑問があるようにございますが、実は、し尿の汲み取り等につきましては、夏においてになります避暑客と申しますか、そういう人たちと、それからもう一つ、市外からつまりおつとめになっておられる方等が日中に用をたされる。こういう人たちの数字がこの中に考えられているわけでございます。

○九番（辻田 実君） そうなりますと、不確定の数で、おおよそ九万とか十万という形で把握できればいいわけですけれども、こういう端数が出て、こういう数字に出ておるといふのは何か根拠があるんじゃないですか。こういう数字はいろんな面で利用される。公式発表です。長期計画ですから、おおよそ十万都市とか、九万都市、こういう形で出てくれば、観光客が入ってきたのが一人、二人と正確に把握できておりますか。なんでこういう数字が出るんですか。見当つかない。はじめて見る数字ですから、どうひっかけてみてもこの数字はあわない。どうしてこういう数字を、何で、何によって出したのかということをおつとめ教えてください。

○衛生課長（館石勘治君） 観光客とか、あるいは市外からまいります昼間人口こういうようなものはあくまでも推計でここに出してございます。

○九番（辻田 実君） 推計人口ですか、推計人口でこう出るわけないでしょう。

もう一つは、もっと厳格に聞きたいことは、数字ですから正確にしてもらいたい。重要な数字ですから、区域内というのは市全体の人口がそういうことなのか、私も今言ったような観光客とか、そういうようなものを入れた推計人口ということになります

と、推計人口がこういう二百五十六人という端数が出るというのは、正確な調査はいつの時点でやったのか、そういう国勢調査に準ずるようなところのものをやったのか。さもなければ、四十八年度の何月何日において市の居住者なり、なんかの数字がこういう数字に一致をしたことがあるのか。何月何日かの住民登録の人口がこうだったとか、なんかそういうものがあるんじゃないですか。この数字があまり合わないんです。端数まで出るのがなんかあったんじゃないですか。別にどうこうということじゃなくて、大きい問題ですから、のせた数字を教えてもらいたいですよ。何を基準にしてこれをやったのか。

○衛生課長（館石勘治君） これにつきましては後日、資料を取り寄せまして御説明申し上げます。

○六番（栗原一雄君） 七三ページ第五節商業を見てまいりますと、昭和四十七年の小売り業一店当たりの購買人口は四十三・五人でございます。館山については、県の平均が七十六・二人という数字が出ております。先ほどのお話しと申し上げましょうか、一〇番議員さんに対する答弁の中に、館山市の産業の振興はたいへん大事であるというようにお話ししてございますが、こういった統計から見えてまいりますと、館山市の周辺都市が非常に整備されて大型店の進出があるわけでございます。

現在の館山を考えた場合、四十七年の統計でこういう数字でございまして、県の平均からまいりますと、相当低下しているということが考えられるわけでございます。

そういった面からも、商店街の近代化整備事業費といたしまして、根幹事業実施計画には百万円が計上されておりますけれども

この百万円という数字では商店街の近代化はたいへん無理なことでございますが、これは調査費でございますか、そのへんをお答えいただきたいと思います。

○商工観光課長（鈴木 力君） 百万円につきましては、いわゆる市内の全商店街の広域商店街診断、これをまず実施したいという考え方でございまして、広域診断に基づきまして将来の具体的な商店街のいわゆる再開発的な整備をやりたい。こういうことでございますから、調査費ということでございます。

○六番（栗原一雄君） 常に、私は自主財源の問題を取り上げるんですが、館山におけるいわゆる財源というものは商業活動が非常に大きなウェイトを占めているということだろうと思います。

そういった意味からも、商店街の振興計画これは早急に解決すべき問題ではなからうかと思えます。どうか、そういった面で館山市が南房総における位置づけと申し上げましょうか、観光館山と申されながらも観光施設はまことに少ないわけでございます。そういった意味で、どちらかと申し上げますと、いわゆる南房総における商業都市館山といったほうが私は適切だろうと思えます。しかしながら、こういった長期構想の中にもあまり変化が見られないということについて私どもは非常に残念だと思います。どうか、そういった意味で、もちろんこれは三年間ローリング方式というところでございますが、どうか、そういったものを積極的にローリング方式の中に取り入れていただきたい。かように考えまして質問を終わりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会付託省略は決せられました。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、この基本構想について、この基本構想が総合計画と関連して出てきている問題ですから、一応この問題との関連でこの基本構想についての反対討論をしたいと思うんですが、質疑の中で明らかにしたように、将来の館山市をどうするかという問題についてですが、そういう問題について非常にあいまいなんですよね。だから、あいまいだとウェイトの置き方が違ってくると思うんですよ。そういう点では現状分析についても全く重要な点に触れていないんですよ。こういう構想では将来の館山市を展望するというわけにはいかないわけですよ。

ただいま出た商業の問題についても、一体館山の商業を發展させるためには、館山市は周囲が海に囲まれて水産資源が、これが發展して漁業にたずさわる人たち、加工業にたずさわる人たちの所得がふえなければ、これは館山市の商業は購買力が結局そこにあるわけですから繁栄しないわけです。商業を考えても、今のよるな農村の経営が困難になっている状態の中で、館山市が商業都

市として發展するわけではないですよ。

基本的な考え方の問題ですから、館山市が地方都市として水産業や農業に囲まれている。そういう地域の中にあるということですから。だから、一番大事なことは、そういう中、工業化が進む中で房総南部が観光レクリエーション地域として新しく上ってきたということなんです。従来に増してそういう方向での施策が必要になるという方向があると思うんです。そこらの点になると、現状分析があいまい。

特に、自然環境特にそういう方向に發展していく上で自然環境を守り育てるというそういうことが一番重要になっているわけです。そういう点を明らかにしないと、今館山市に八社ぐらいが、大会社が大規模開発をやるうとしてきている。これは当然地域の自然環境を破壊することになるわけですよ。

だから、館山市がそういう方向をはっきりさせれば、そういうものについておさえていくという、そういう方針も出てくるはずですよ。そういう点からみても、自衛隊の問題も先ほど出しましたけれども、自衛隊があそこに埋め立てたために湾内の潮流がすっかり変化しておるわけですよ。迂回して船形のほうに流れていたのが、埋め立てたために沖の島にぶつかったその潮流が直接シーサイドホテルから川崎のほうに流れるから、あそこで護岸工事をしなければならぬような侵蝕作用が起こっているわけですよ。おもにこれは潮流の変化によるものです。専門家はそういうふうに見ておるわけです。自然がそういうふうには破壊されてきている。もとに返すにはどうしたらいいかという問題もそこから出てくると思うんです。そういう現状認識がまるきりないんです。

海岸道路にしても、田村さんがあれば自衛隊直結の道路をつくる。そういうことがやられると批判が起こって反対されるから、固定公園の指定をとって観光道路ということであそこに道路をつくった。安あがりの道跡なんです。何の妨げもないところに道路を敷くのだっただれでもやれるんですよ。上のほうにやるような案が、住家やなんか、そういう賠償問題がありますから、むずかしい問題だから、やさしい方向をとってあの海岸を破壊した。

そういう経過的に見ても、われわれはそういう事実をはっきりつかんで、将来の館山市をよりよくするために、館山の発展に妨げになっているものは一つ一つ取り除いていくという方向を明らかにしなければ、十年先の展望というものは出てこないと思うんですよ。当然それは教育、文化にしても、福祉にしても充実させなければならぬということは従来の方針とちっともかわらないと思うんですよ。遅れているわけですから、もっともつとよくしなればならない問題ですから、こういうものをやるのはあたりまえの話で、館山市が十年後をどういう住みよい館山市にするかということが、これが基本にならなければならぬと思うんですよ。それには市民の経済状態がよくならないで、一体館山市は予算の面から見ても発展するはずないでしょう。市民のふところぐあいがよくなくて、大ぜいの人が館山市に入ってくるようになってそこで館山市は繁栄していくんですよ。

そういうビジョンを明らかにすることが必要なのに、非常に抽象的で、どっちかといえば、従来のをそういう形でこれが出されてきておる。私はこういう問題についてはもっともっと五十

年から六十年までですから、市長さんは十二月におやめになり、新しい市長が出てこれから十年間あるいはやるかもしれない。そういう人がやはりもっともっと分析を十分やって、そういう展望を持つことがいいと思うんですよ。

それを、市長さんがやめる間きわに十年間の構想をもってここに出して議会で決議されると、一つの固定化ができるわけです。そういうことで、私は非常に不満があるわけです。

ですから、この議案はできれば、提出されればここで可決されることになると思いますけれども、しかし、非常に不十分な面があるから、可決されてもこの内容については私はもっともっと検討して十分なものにしていく必要があるから、そういう立場から私はこの基本構想については反対いたします。以上です。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

〇議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。

本案の採決は起立により行ないます。本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

〇議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって、本案は原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩いたします。午後一時開会といたします。

午後零時二分 休 憩

午後一時 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第七、議案第六十九号昭和四十九年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案第六十九号 昭和四十九年度館山市一般会計補正予算（第一号）

質疑応答

○一〇番（渡辺軍治郎君） 三つばかりお伺いします。

第一は、一一ページの寄付金の問題です。十九万六千円が漁港の寄付として計上されていますが、これはどこの漁港で、どういう内容か。それをお伺いしたいと思います。

それから、一九ページの六項住宅費の二目住宅建設費ですが、説明では萱野に十戸つくるやつを二戸減らしたので百九十七万六千円の減額補正が出ていますが、十戸つくるというのをどうして九戸に減らしたのか。その点についてお伺いしたいと思います。

一九ページの同じくこれは九款消防費の問題ですが、十九節の消火栓の問題で亀ヶ原に消火栓を計画したけれども、三芳水道でやらないというように説明がありましたけれども、これは亀ヶ原の消火栓はこれからもやらないのか。今年度やらないということか。あるいは来年度また引き続いてやる考えなのか。そういう点質問したいと思います。

同じく、消防施設費の中で、川崎には工務店がつくったので、一応やめになっておりますが、塩見の貯水槽について土地の問題で取りやめになっていますが、地元では川があるので、その川を利用したほうが消防のための水に役立つというような、そういうことらしいんですが、この川を貯水槽に使うような計画をしているのかどうか。以上の点について質問したいと思います。

○水産課長（谷貝茂生君） 一一ページの寄付金の一般寄付金の内容でございますが、一八ページで農林水産業費の中で工事請負費として四百九十万、洲の崎漁港の局部改良工事の請負費としてお願いしてございますが、これは国、県で八割の補助がございまして、地元として二割をもちましてこの工事をやるわけでございまして、二割のうち、市で八割持ちまして、二割の中の二割を洲の崎地区から寄付の話し合いがございまして、二割の中の二割を洲からの寄付の受け入れでございまして、

○建築課長（佐野甲子郎君） 一九ページの市営住宅の建設戸数の一戸減少したことにつきましては、本年度の各市町村から住宅の建設の申請が県において取りまとめられまして、県の建設戸数の範囲内における配分のワクのために一戸減少した次第でございます。

○交通防犯課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

消火栓新設負担金の減額でございますが、先般、御説明申し上げましたとおり、これは亀ヶ原の下台部落、農村中堅青年養成所の前のほうの南側の部落でございますが、あそこの部落に入口に貯水槽が一戸すでに十年前ぐらいに建設されておるわけでございますが、あそこの部落にまだ水道の施設がございまして、あ

付近はいろいろ工場も建設されました、水道敷設の場合には当然消火栓を設置することがいいわけでございますが、当初四十九年度で水道を敷設というようなことをお聞きいたしましたして、部落からも御要望がございまして、当初やはり計上させていただいたわけでございますが、三芳水道企業団にお聞きいたしますと、本年度下台部落に水道敷設の計画はおありにならないということで、本年度ここに減額をお願いいたしまして、水道敷設のあかつきには当然消火栓を設置すべきであると、このように考えております。

第二点の、西岬の塩見地区の防火水槽でございますが、あそこ坂をくだってまいりまして右側に、もう十数年前から川どめがあるわけでございますが、やはり大きな雨なんか降りまして水害が起こりましたり、また両脇の岸をあらってしまふというふうなことでございまして、あの付近に一カ所貯水槽をつくってくれというところでございましたが、その後、要望が川の護岸をかねたような貯水槽というふうなお話してございまして、これをつくるにしましても、わずかに消防車が一台しか横づけできないというふうなことでございまして、ちょっと消防本来の意味合いからいまして、適当でないというふうに考えておるわけでございますが、あそこに新しい道路がフラワールラインに接続いたしますりばな道路が上にきて、旧道が近いうちに市道に移管になる。こういうふうなお話を聞いておるわけでございますので、旧道が市に移管になった場合にはあの道路上に設置するのが一番適当ではないか、このように考えまして、ここに減額をお願いした次第でございます。以上です。

〇一〇番（渡辺軍治郎君）

洲の崎の寄付金の問題ですが、これは

県の事業としてやられるわけですが、補助事業そういうことになると思いますが、地元が二割ということで、その八割を市の方で二割を洲の崎地区でという、そういう寄付の内容だと思っておりますが、これはやはり漁港の事業というのは公共事業だと思っております。当然これは全額負担するならば、県と市との関係で市が全額負担すべきものだと思いますよ。

それを、区だとか、地元受益者負担という考えでおそらくやっていると思うんですが、負担金を取るということは、市条例で負担金条例があるわけです。それに基づいて負担金を取らなければならぬのに、寄付という形で洲の崎のおそらく漁協、そういうところから十九万六千円の寄付を取ることになると思いますが、私はいつも割り当て寄付について反対しているんですが、こういうふうにある程度予算化されたものの何割を地元から寄付を取ることと、割り当てて寄付を取ることとで態度的寄付ではないわけです。

こういう問題については、私はいつも寄付というのは結局は、地方財政法に違反する割り当て寄付になるということで反対しているわけですが、こういう点については全くもう納得がいかないわけです。これを主張してみても答えは同じだと思いますので、質問は打ち切ります。

消火栓の問題で三芳水道との関係ですが、部落に水道を引くということと関連があると思いますが、当然あそこらの人たちが水道を敷設してもらいたいということと合わせて消火栓の問題が出てくると思うんですが、今年度やらなければ来年度やるのか。そういうことは地元と、それから三芳水道との関係の話し合いがな

されて非常に見通しとして、今年度やらなければ来年度やるのか。来年度もできないのか。そういうようなことで、消火栓とというのは火災が起こったとき重要な問題ですから、なるべくならば早くやるべき問題だと思っておりますが、その点はどうなっているのか。重ねてお聞きしたいと思います。

○ 交通防犯課主幹（岩田 実君） お答えいたします。

水道が敷設した時点でもって直ちに設置する計画であります。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） 水道が設置した時点というといつになるかわからないわけですよ。こういうことは早くやる必要があるわけでしょう。防火上、地域住民とすれば水道を引いてもらいたいというものもあると思うんですよ。

ですから、そういう立場から一応本年度やるというようなことで三芳水道との交渉もやったと思うんですが、三芳水道今年やらないならば、来年度やるのか。そこが消火栓をつくることが重要だとすれば来年度にやってもらうように交渉するとか何とか、そういう方向がなければ、なんかいき当たりばったりみたいな、そういうことではいけないと思うんです。そのへんをお聞きしているわけです。

○ 交通防犯課主幹（岩田 実君） 先ほど御説明申し上げましたように、

入口に四〇リユーベの貯水槽が一個ございまして、あそここの戸数は大体十戸ぐらいじゃないかと思うわけでございますが、一番奥に古い貯水槽が、杉田さんというお宅のところに古い二〇リユーベぐらいの貯水槽が一個ございまして、大体あの部落を守るだけのあれはあるわけでございますが、先ほど申し上げましたとおり、あそここの県道から入っております途中にも家もできてま

いりましたので、その途中に消火栓を設置したい。こういうふうに考えるわけございまして、三芳水道と協議した時点では、大体本年度中ぐらいには水道が敷設ということをお聞きしましたもので当初予算に計上させていただいたわけでございまして、それが延びたわけございまして、私どもの考え方としては来年度あたりはもう水道が敷設されると考えておりました、そのときに貯水槽を設置したいと考えております。

○ 一〇番（渡辺軍治郎君） これは三芳水道との関係ですから、水道は三芳水道企業団でやっていますけれども、ある程度水道を引くということは採算制も考えて、相当の人家がないとむこうも積極的にならないと思いますが、消防の問題は別に、非常に重要な問題なんで、三芳水道が地域住民の要望がないと、三芳水道のほうでも乗り気にならないと思うので、そこらひとつ、地域との話し合いで必要ならば続けて早く交渉してやってもらうような、そういう方向で解決してもらいたいと思います。それを要望して、以上で質問を終わります。

○ 三番（流山源次郎君） 一八ページの土木費一目の二、三、四、十一節でございますが、これは先日の説明で数字とか、こういうものはよく了解するのでございますが、この線に関連いたしてお聞きしたいと思います。

実は、市の土木課に所属しております現場でございますが、これは非常になんか破損箇所があるとか、そういった問題があった場合に、非常に今船舶あたりで問題になっておるすぐやる課に負けないぐらいに迅速にやっていたきますし、工事自体りっぱにやっていたきますして、市民としては非常に大きな喜びをもって

いるわけで、相当感謝されてゐるわけでございますが、現状では作業員の数も限られてゐる面もございますし、また、広い館山市の範囲にあってなかなか手が回りにくいという現状でございますが、私はむしろこういったものは地元負担の軽減とか、そういうものを考えて、もう少し作業員をふやして今のみんなに、市民に好感を持たれてゐる。これをもっと幅広くやれないものかどうか。その点はまたほかに、土木の業者あたりとの兼ね合いがあるってそういうものができるものかどうか。その点をお聞かせいただきたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 私どものほうの工夫の作業員のお話でございますが、今までも新規採用やりましたんですけれども、なかなか応募者がいないということが一つの問題でございます。今の手持ちの作業員で何とか、皆さんには御迷惑をおかけいたしてありますけれども、何とか間に合っているというような形なので、ここと一、二年はしばらく現在のまま様子を見まして、また増員する。これは人事課とも相談しまして今後検討していきたいと思ひます。

○三番（流山源次郎君） よくわかりました。

私といたしましては、ほかの工事業所とかそういったことに特別大した影響がなくということでございますれば、ほかの工事業所そういったところのものは、簡単な仕事でも、ごく簡単なものでも市で一応入札を終わっても、請負を終わっても、早いものでも一カ月ぐらひはかかって、いろいろ仕事の手配があると思ひまして、その工事やるまでには早くても一カ月ぐらひかかって、遅い時期になると三月、四月からなければ仕事にならないとい

りような現状でございますが、そういった点を考えまして、できれば、もう少し市の人をふやしてそういったものを市民のためにしていただきたいということを要望して質問を終わります。

○一八番（安西益男君） 二点、お聞かせ願ひたいと思ひます。

一七ページ需用費の老人福祉センターの備品の修繕料についてちょっと内容を聞かしていただきたいと思ひます。

それから、二一ページの同じく需用費の、これは温水プールの屋根が腐食したというように感じておりますが、非常に腐食の時期が早いという感じを受けます。したがって、材料がわるかったのか。あるいは工事の点にどうかというようなそういった感じも持つ者でございますが、そういった点の状況、改良はどの程度の改良を行なうのか。こういう点について伺ひします。

○福祉事務所長（斉藤武男君） 一七ページの修繕料の關係につきましてお答え申し上げたいと思ひますが、今まで市の所管でございましたマイクロスバスを今年の四月から老人センターのほうに配車をお願いしたわけでございますが、そのマイクロスバスの車検にやりますところの修繕料でございます。

○体育課長（川上賢爾君） 温水プールの修繕料でございますが、腐食の時期が非常に早いということでございます。確かに四十五年に建設しましたので、早くなっておりますが、御承知のように暖房しておりますので、非常に湿度が高いということが一点でございます。

第二点は、塩素滅菌をしてございますので、ちょうどこの合宿施設の上の屋根がかわらばうの鉄板ぶきてございます。したがって、塩素に非常に弱かったということでございます。その二点

がやはり修繕の時期を早めた大きな原因でございます。

それから、改造でございますが、一応プールの合宿施設の上の部分一九二ヘーベをアルミカラーぶきにして改造しようというものでございます。

〇一八番（安西益男君）

老人センターの修繕料についてですけれども、実は先般、老人センターにお伺いしたわけですが、老人の人々からも要望として一応聞いておるわけですが、ざぶとんですね。老人のことですから、よごしてもそのままにして重ねて置いていっちゃうということがたびたびあるということです。上のカバーをかえても中がくさいというような、そういう声も聞いております。したがって、もうそろそろ取りかえをしてもどうかというような、そういう要望等も相当聞いておるわけでございます。

そういった点で、今回ここにどうかというふうに実は考えておったわけですが、それと、たたみもだいぶ古くなってきておりまして、たたみも表をかえる時期じゃないかということも、そういったことも聞いておりますが、今後のそういった点についてのお考えがあるのかどうか。その点お伺いしたいと思います。

温水プールですけれども、当初はそういった考慮は当然あったと思いますが、しかしそういった塩素細菌の関係あるいは湿度の関係がというようなことは今回は考慮されて、材質等は十分考えてやる。こういうことでございますか。

〇体育課長（川上賢爾君）

そのとおりでございます。

〇福祉事務所長（斎藤武男君） 老人センターの関係につきましては、四十八年度ではおかげさまで二万人からの御利用をいただい

ております。非常に御利用が多いために、そういうような備品がいたんであることも事実でございますけれども、これを出し入れの際に、一応たばこが落ちてないかどうかというようなことで一々はたきながらそのものを点検しておるわけでございますけれども、破損しておるものについては補修をしましたり、いろいろ修繕費を当初予算の中でもいただいておりますので、その中で修繕をさしていただいております。

それから、たたみの表返してございますけれども、これも昨年ちょっと時期が早かったのでございますが、たたみが新しいほうがいいだろうということで裏返しをしたわけでございます。またそういうような面で特に見苦しいような点がございましたら、そういうようなことで善処してまいりたいと思います。

〇二二番（田村源治郎君）

一八ページの商工費、商工振興費に館山市物価問題協議会の補助金、館山の物価問題協議会は何回行なったか。また、物々交換をやったけれども、この成績の状況をひとつ教えていただきたい。

それから、次は観光費、自動車の六十三万は観光として自動車の購入費、どういうふうにこの観光で、どういうような使い方をするか。今までのないものを自動車を求めている。それらをくわしく教えていただきたい。

〇商工観光課長（鈴木 力君）

お答え申し上げますが、まず第一点の物価問題協議会の件でございますけれども、四十九年度に入りまして、実は、物価問題協議会を数多く開催したい。こういう考え方を持っておるわけでございますが、いろいろの関係上、いわゆる正式な協議会の開催というのをみておりませんけれども

ただ、たとえば不用品の交換会開催とか、あるいはまた国民生活安定に関する市内の小売り物価とか、あるいは在庫等の関係こういうこととございましたので、いわゆる協議会的なものは何回か開催しておるわけでございます。

来月、消費生活展を開催する予定でございますが、その際に合わせて物価問題協議会を開催いたしまして、今後の市のこれに対するあり方等につきまして御意見を拝聴いたしたい。このように考えておるわけでございます。

それからなお、六月三十日に家庭用不用品の交換会を開催したわけでございますが、これにつきましては物価問題協議会に主体となっていたしまして、市内の婦人団体連絡協議会、主婦クラブ連絡協議会、それに農協婦人部の関係団体とタイアップいたしまして開催したわけでございますが、これにつきましては実行委員会組織というものをつくりまして運営にあたったわけでございますが、おかげさまで開催の結果というものは非常に好評を博したわけでございまして、できれば、今後におきましてもこのような会を開催したいということを考えておるわけでございます。

これにつきましてはやはり石油資源あるいはエネルギー資源の節約こういうこと、あるいはまた物を大事に使う。こういう消費者皆さま方の考え方を今までの生活から反省して、いわゆる消費生活のあり方というものについての今後の考え方を、こういう意味から開催したわけでございますが、一応の成果をあげたということがいえるんじゃないかと思っております。

それからなお、観光費におきまして今回、ライトパン一台の新規購入をお願いしたわけでございますが、この車につきましては

現在使っております車が古くなりましたして、十二月に車検も切れるという時期がきておるわけでございますが、この車検を受けてもいわゆる合格するということがちょっとあぶないわけでございまして、今回新しく庁用自動車としてお願いしたわけでございます。この車につきましては観光事務遂行上、いろんな面で利用しておるわけでございます。

〇二二番（田村源治郎君）　今、聞くと、館山市物価問題協議会というものは一回も行なわなかったと、それからまた物々交換に対するものは特に成績がよかった。ただし、館山市物価問題協議会は全然行なわないうでほかのものをやっておる。市はかつていろんなものに補助金を出して、協議会には全然正式な会を行なわずに、それで正しいいき方であるのか。物価問題協議会はオミットしてしまっているのか。今後やりますということは成り立つか。もう何カ月たっているのか。

それらに対して、物々交換は好成績をあげたら、なぜ月に一回ずつ行なわないか。あるいは物価協議会そのものを開いて意見をとり入れるような仕組みを全然行なってなくて、かってなといえばかつて、考えたアイデアの、基礎的なものを失って何がアイデアか。そういうことは私たちはアイデアではない。議会を無視しているようなあれじゃなかるうか。一回もやらないと、今後やりますで言いわけが済むか。この石油問題あるいはあれがきていても、なぜ一回もやってないんだ。四月以降に対するもの、三月以降というものは日本全国物価、いろいろの問題でかなりいたっていた。それらの点において物価問題協議会というものをやらずに済ませるのか、今後やるというけれども、今後やる必要性はもう

ないだろう。今までやらないものが。今までは物価狂乱時代で、今やや落ち着いてきておるけれども、その問題について課長どう考えておるか。ひとつ御答弁をお願いします。

○商工観光課長（鈴木 力君） 物価問題協議会につきましては数多く開催いたしました、ひとしく委員の皆さま方の御意見を拝聴いたしました、それを市の消費生活行政の上で反映させるということは御指摘のとおりでございます、四十九年度に前半開催しなかったということにつきましては、私から本当におわび申し上げる次第でございます。

しかしながら、やはり物価問題協議会のいき方というものが非常にむずかしい問題がございまして、主として消費者行政という面につきまして重点的にいろいろ御意見を拝聴しておるわけでございますが、先般も申し上げましたとおり、特に館山市におきましては夏物価が異常な上昇を、高騰を続ける。こういうふうなこともございまして、先般、県におきまして観光地における生鮮三品の流通実態調査というものを館山市を中心に行なったわけでございまして、その結果も出まして報告書もでき上りましたので来月に入りましてそれを中心とした報告会を開きまして、いろいろと分析いたしました、また皆さま方の御意見等も十二分に拝聴いたしました、今後の館山市の夏物価の高騰というものに対する対処をいたしたい。このようにも考えておりますので、どうぞ、その点につきまして御了承をいただきたいと思います。

○二二番（田村源治郎君） 今、夏物価の資料の調査をしたといふけれども、館山の物価協議会のあれは一回も行なってなくて、面目しだいがない。夏物価過ぎちゃってるのに調査した。現実に物

価を引き下げる協議会というものをこしらえてあるわけなんですよ。それでしょう。そのものが行なわれなかった。夏が過ぎて夏物価、何を意味して将来を考えておるのか。夏物価に対する調査は、資料はできました。協議会やります。物価問題協議会は調査員じゃないんだ。物価調査会というならこれはしかたがないけれども、四十九年度物価問題をいかにするか。夏期に向かう物価が高い。いろんな問題点、石油物価、四十九年度は一番物価の上昇の激しい、一番市民生活に骨が折れるときだ。今、やや安定した。まだまだだ。生活に一番苦しいときなんです。それにおいて物価の調査、夏終ったものを今度やります。これならば、館山市物価問題協議会というものは解散したらどうだ。やめたらどうだ。私はやめるならやめて、あえてさしつかえないだろうと思う。だから、この予算はもういらないから流用して、本当のこの協議会の経費をこれを他に流用して使ってしまった、また十五万をこれに組む。また流用されてしまふんじゃないかということは、はっきり読み取れるんじゃないか。物価協議会の仕事をやるならいいけれども、また審議さして流用に使ってしまうなら、この十五万は絶対に認める必要はなからうと思う。審議さして、どう考えますか。金を組まして他に流用して、名目はうしろぐらい。一回もやらずに、夏物価を今度調査しました。資料をそろえます。過ぎたものでもう追いつかない。これに対して、大きな夏物価を調査して茂原が市場をこしらえておるように、市場をこしらえる気持があるなら待ってくれと、何ら将来に対する大きな見解もなくて調査しても何にもならない。その点において課長はどう考えますか。

○商工観光課長（鈴木 力君） 夏季物価に対しては長い目で見ていただきまして、非常にむずかしい問題でございますので、一応長期的にいろいろ方針を立てまして、これを順次改善していくということであらうかと思うわけでございます。

物価問題協議会の経費につきましては、効率的に予算の執行をしておる考えでございますけれども、今回追加いたしましたのは先般御説明申し上げましたとおり、先に実施しました不用品交換会の際の運営費でございますけれども、いろんなPRあるいは消耗品購入費、あるいはまた、一部におきましては二日間、三日間係員として出ていただきました婦人会あるいは主婦クラブ、農協婦人部の役員の方々に對しまして中食代とか、あるいは一部バス代というような形で支出を当物価問題協議会のほうからお願いしたわけでございますが、これに對しまして一応今回補正という形でお願しようとするわけでございます。

それからなお、夏季物価の調査に對します経費といたしましては、先ほど申し上げましたとおり、県におきまして報告書を作成したわけでございますが、これにつきましても物価問題協議会におきまして、これらの報告書の購入代ということをお願いをする次第でございます。

なおその他、来月やはり開催を予定しております消費生活展の経費の一部を当物価問題協議会のほうから支出をお願いしたい。こういうことから今回不足を生じます十五万円につきまして追加をお願いした次第でございます。

○二二番（田村源治郎君） 夏物価を調査して、長い目で見てください。長い目で見てくださいますか。長い目で見たいのか。

議会における長い目というのは何らかの計画性がなければならぬ。はつきり計画性を言っていたきたい。議員をだますようなこの十五万に對するあれは物々交換、弁当費用がかかった。経費をかけて物々交換を多くやる仕事か。婦人部いそがしいさなか手伝わして、これで好成績といえるか。経費のかけ過ぎで。それならば、物々交換をいついっか持つてきなさい。北条海岸でも、館山海岸でも不用品があったら集めて持つてきて、名前を書いて簡便な方法で、銭をかけて物々交換をやって女たちは祭さわざだ。何が消費ですか。いわゆる北条なら北条、館山なら館山で住民が物々交換、部落なら部落にきてお互いに物々交換やりましょうというわけで、ざっと並べてやったら経費をかけないで、市から補助しなくてもいいでしょう。何のために祭のていさい、暗幕主義をとって、それで物々交換といえるか。

いわゆる、生活ということが一番根本だ。館山市は物価が高いところなんだ。夏季の物価をいかにして下げていくか。ましてや館山市は物価問題に對しては一番後進市だ。鮮魚、野菜の市場も統制が取れなくて、市の立ち入り検査もできないような市場を課長は現に応援してやるからこそ、館山の魚市場、何ゆえにああいうような応援をしてやるのか。立ち入り検査らしい応援もできず、そうして市の命令を聞くとかいうなら応援してやるけれども、何をいってもやらない。何が物価だ。鮮魚商はかってなふるまいをしてある。物価はさがるわけがない。野菜も魚市場も統制も取れずに、他市はそういうものがありますか。木更津でも、茂原でも勝浦でもみんな近代化した都市づくり、物価問題に取り組んでおる。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、委員会付託は省略されました。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、この予算案の寄付の問題を除いては別に反対いたしません。が、寄付の問題についてはいつも反対しているように、この寄付が結局割り当て寄付になっているわけだ。

県の補助が八〇%ですが、一般財源の負担はわずか九十万ですから、これを地元で割り当てて取るというようにすることをしなくても、公共事業は公益事業と違って税でまかなうべきものだと思えます。当然市の財源でまかなうべきものだと思えます。

この予算では十九万六千円、わずかですけれども、やはり洲の崎地域に二割の二割ということで割り当てて寄付を要求していますので、こういう割り当て寄付は地方財政法から見ても違反するので、私はこの寄付に賛成することはできませんので、この補正予算に対しても、ほかの問題はありませんけれども、この一点でこの補正予算に反対いたします。

長い目で見なさいということは、どういうことを長い目で見なさいというか。長い目で見ていたら館山は全滅ですよ。こういう問題は真剣にもっと他市を見習って物価の問題、こういう問題には真剣にもっと取り組んでやってもらいたい。ていさい主義の何にもならない金を支出するならしないほうがいい。長い目で見るという計画を、長い目のあれをちょっと聞きますけれども、どういう構想を持っておりますか、それだけ聞いて終わりますから。○商工観光課長（鈴木 力君） 表現がわるくてたいへん申しわけございませんけれども、私の申し上げましたのは、これらの問題につきましては、短期間におきましてはなかなか解決のつかない問題、いわゆるじっくりと長期的に計画を立てまして、長い間一歩一歩前進していく。こういうことから申し上げたわけでございまして、夏は今年が終わりましたけれども、来年あるいは再来年と夏がまいります、その時期に備えて今後夏物価等につきまして十分対策を立てていきたい。このような考え方でございます。

○二三番（田村源治郎君） 毎年このようなことを議会でも答弁する。私は、この物価問題はかなりやっております。毎年あんなの答弁は、物価問題に取り組みます。取り組みますと、何を取り組んだですか。何ら取り組んでない。

物価問題は、みんな見て必ず短期間にやらなくてはならない。長い日にちになつたら物価問題は終りになってしまふ。物価の問題は端的にやることを要望して、真剣になってやってもらふというところで終りにします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。本採決は起立により行ないます。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって、本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午後一時五十二分 休 憩

午後二時 十二分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第八、議案第七十号昭和四十九年度館山市水道事業特別会計補正予算についてを議題といたします。

議案第七十号 昭和四十九年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

感謝状贈呈について

○議長（吉田勇治郎君） この際、おはかりいたします。

今般、市長より市議会に対し、図書購入費として百万円の寄贈を受けましたので、市議会として感謝の意を表するため感謝状の贈呈をいたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって、決しました。

これより感謝状の贈呈を行ないます。

（感謝状贈呈） （拍手）

市長のあいさつ

○議長（吉田勇治郎君） 市長より発言の申し出がありましたので

これを許可いたしたいと思ひます。

○市長（本間 譲君） たいだい、議長さんから私に對しましてありがたい感謝状をいただきまして、身にあまる光榮でございまして厚く感謝をいたしたいと思ひます。

私も十二年にわたりまして市長としてやってまいりましたですがこれはひとえに議員の皆さま方のあたたかい御指導、御協力に、よった結果でございまして、私は常に感謝をしておるわけでございしますが、これに報いるために、ここを去るについて何らか考えなくちゃならぬと思っておりますが、いろいろ考えましたけれども、なかなかいい考えも出ませんで、議会には現在図書室といひますか、図書があまりないように見受けられておるわけでございしますので、議会の図書として皆さま方がそれを参考にして市の発展に尽すことができるならば、私はこの上もないしあわせと存じまして、長い間の御支援、御協力に對する感謝の意味をもつて、ささいなことですが、寄付を申し上げたわけでございしますが、それに対してありがたい感謝状をちょうだいしまして、本当に申しわけなく考えておりますが、十二月十日で私も皆さんのお世話になりっぱなしでお別れることになるわけでございしますけれども、私も一市民としてここにおる者でございします。これからは自分の仕上げた事業を通じていろいろがんばりたいと思ひますので、大体私が仕上げた小事業がございしますけれども、まず一番場所のいい信用金庫も、今幸い会長になっておりますから、信用金庫にでもがんばらしていただいて、自分の関係会社を見張っていつて、少しでも皆さま方のお役に立てば幸いと存じますが、どうか、私がやめてからでもまたぜひお

訪ねをいただければ、私は本当に喜んでおるわけでございますが本当に長い間、私のように西も東もわからない口べたの人間をかゝまで御指導いただいたことに対しては、本当にありがたく心から感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。（拍手）

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、きょうの日程は終了しました。

休 会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

議案審査のため九月二十一日、二十二日及び二十三日の三日間休会いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて、三日間休会することに決しました。

散 会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は九月二十四日午前十時開会いたします。その議事は、昭和四十八年度一般会計及び特別会計決算の審議といたします。

どうも、長時間ごくりうさまでございました。

○本日の会議に付した事件

一、報告第二号

一、議案第六十三号乃至議案第七十号

一、感謝状贈呈について

一、休会

